

科目番号	科目名	特別演習 I	担当教員：波照間 永吉		
博国地 019	科目名 (英語)	Special Seminar I	E-mail:e.hateruma@meio-u.ac.jp		
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	前期	2	227	講義後の1時間程度
1. 授業の概要					
琉球・沖縄文学に関する博士論文のテーマに即した研究指導を行う。テーマ設定の妥当性、研究方法の検討、先行研究の整理などについて検討する。博士論文のための作品・事例の分析研究の基本的な方法について検討する。					
2. 到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・テーマを確定し、学位論文の作成に向けて計画を立案・決定する。 ・研究方法についての認識を確かなものにする。 ・テーマに関する先行研究を洗い出し、研究文献目録を作成する。参考文献の読み込みを始める。 ・テーマに即して作品の解釈研究に取り組む。 					
3. 授業の計画と内容					
第1週	博士論文作成についての基本的な心構えについて意見の交換を行い、テーマの確定につなげる。				
第2週	研究テーマ追求のための方法論について意見の交換を行い、研究方法についての認識を確かなものにする。				
第3週	研究テーマに関する先行研究の探索について指針の提示を行う。				
第4週	先行研究の探索についてのとりまとめと研究文献一覧の作成について指導する。				
第5週	研究テーマに即した作品・事例研究①				
第6週	研究テーマに即した作品・事例研究②				
第7週	研究テーマに即した作品・事例研究③				
第8週	研究テーマに即した作品・事例研究④				
第9週	研究テーマに即した作品・事例研究⑤				
第10週	奄美・沖縄の村落祭祀のフィールドワーク①				
第11週	奄美・沖縄の村落祭祀のフィールドワーク②				
第12週	フィールドワーク報告書の作成指導① (草稿)				
第13週	フィールドワーク報告書の作成指導② (完成)				
第14週	作品・事例研究の結果のとりまとめ (論文作成) ① (草稿検討)				
第15週	作品・事例研究の結果のとりまとめ (論文完成) ② (草稿検討と完成)				
4. テキスト					
【テキスト】					
外間守善『校注おもしろさうし』(2000年・岩波書店)、外間守善・波照間永吉『定本おもしろさうし』(2002年・角川書店)、外間守善・波照間永吉『定本琉球国由来記』(1997年・角川書店)、外間守善他『南島歌謡大成 I～V』(1980年・角川書店)					
【参考文献】					
沖縄古語辞典編集委員会編『沖縄古語大辞典』(1995年・角川書店)、玉城政美『南島歌謡論』(1991年・砂子屋書房)、外間守善『南島文学論』(1994年・角川書店)、波照間永吉『南島祭祀歌謡の研究』(1999年・砂子屋書房)、玉城政美『琉球歌謡論』(2010年・砂子屋書房)					
5. 準備学習					
毎回の講義に向けて事前準備を欠かさないこと。特に先行研究論文の読み込みを積極的に行い、テーマに関する研究状況を正確に理解すると共に、自己の方法論の構築に役立てる。奄美・沖縄の祭祀についても積極的にフィールドワークを行う。					
6. 成績評価の方法					
授業への取り組み(発表・意見交換)とフィールドワーク報告書および作品・事例研究論文の完成度によって総合的に判断する。					
授業への取り組み：20% (リサーチ課題に関するディスカッションや論文執筆に関するディスカッションなど)					
報告書・論文：80%					

7. 履修の条件
特にない。但し、事前学習を十全に行うこと。
8. その他
古文書の読みなどの必要のある場合は、変体仮名・漢字草書体の読みなどの基礎的な知識が求められる。 講義の進行状況によって授業計画を変更することがある。

科目番号	科目名	特別演習 I		担当教員：山里 純一	
博国地 019	科目名 (英語)	Special Seminar I		E-mail:j.yamazato@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	前期	2	225	講義後の1時間程度
1. 授業の概要					
南島地域の民俗文化に関する博士論文の研究テーマ設定に向けた研究発表。					
2. 到達目標					
博士論文として適切な研究テーマを決定する。					
3. 授業の計画と内容					
第1週 ガイダンス					
第2週 発表日程等の調整					
第3週 問題関心および研究方法・計画についての検討					
第4週 研究テーマ設定に向けた研究発表 (1)					
第5週 研究テーマ設定に向けた研究発表 (2)					
第6週 研究テーマ設定に向けた研究発表 (3)					
第7週 研究テーマ設定に向けた研究発表 (4)					
第8週 研究テーマ設定に向けた研究発表 (5)					
第9週 研究テーマ設定に向けた研究発表 (6)					
第10週 研究テーマ設定に向けた研究発表 (7)					
第11週 研究テーマ設定に向けた研究発表 (8)					
第12週 研究テーマ設定に向けた研究発表 (9)					
第13週 研究テーマ設定に向けた研究発表 (10)					
第14週 研究テーマの設定					
第15週 授業の総括					
4. テキスト					
参考文献：授業を進める中で、課題に関連する参考文献を適宜紹介する。					
5. 準備学習					
南島の民俗文化に関するできるだけ多くの論文に目を通しながら、研究テーマに結びつけそうな論文を精読し、研究の現況を整理して発表に臨む。					
6. 成績評価の方法					
発表の内容：70%					
授業への取り組み：30% (リサーチ課題に関するディスカッションや論文執筆に関するディスカッションなど)					
7. 履修の条件					
「南島民俗文化論」を履修した者					
8. その他					
講義の進行状況によって授業計画を変更することがある。					

科目番号	科目名	特別演習 I		担当教員：赤嶺 守	
博国地 019	科目名 (英語)	Special Seminar I		E-mail:m.akamine@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	前期	2	226	講義後の1時間程度
1. 授業の概要					
中国・琉球関係史に関する博士論文執筆に向けて、先行研究に対する評価及び批判的考察を試み、併せてプロットの構築、独創性について検討する。					
2. 到達目標					
博士論文に関する史料・著作・論文目録の作成。研究範囲の絞り込みをおこない、研究アプローチの手法を検討し、論文の構成・内容の充足を図る。					
3. 授業の計画と内容					
第1週	研究領域におけるテーマの妥当性および学術的意義の確認				
第2週	先行研究文献目録の作成				
第3週	先行研究文献目録の作成				
第4週	先行研究の総括 (批判的検討)・整理				
第5週	先行研究の総括 (批判的検討)・整理				
第6週	先行研究の総括 (批判的検討)・整理				
第7週	先行研究の総括 (批判的検討)・整理				
第8週	研究のプロット (構想) の検討				
第9週	研究のプロット (構想) の検討				
第10週	研究のプロット (構想) の検討				
第11週	研究のプロット (構想) の検討				
第12週	各章における問題意識 (独創性) の検討				
第13週	各章における問題意識 (独創性) の検討				
第14週	各章における問題意識 (独創性) の検討				
第15週	研究全体のプロット (構想) 及び問題意識 (独創性) の確認				
4. テキスト					
参考文献：授業を進める中で、課題に関連する参考文献を適宜紹介する。					
5. 準備学習					
毎回、各課題に関するレジюмеや資料を受講生は講義の前に準備・整理しておくこと。					
6. 成績評価の方法					
研究課題に対する取り組みの深化の程度をみて総合的に評価する。					
7. 履修の条件					
漢文資料を多用する場合、漢文読解の一定の基礎力を有すること。					
8. その他					
授業への取り組み：リサーチ課題に関するディスカッションや論文執筆に関するディスカッションなど講義の進行状況によって授業計画を変更することがある。					

科目番号	科目名	特別演習 I		担当教員：住江 淳司	
博国地 019	科目名 (英語)	Special Seminar I		E-mail:j.sumie@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	前期	1	224	火：10:30-12:00、 金：13:00-14:30
1. 授業の概要					
中南米地域比較文化論に関する研究分野の先行研究や現在の研究動向に関する報告を通して、学生が主体的に研究テーマを設定し、その研究の意義を明らかにし、研究領域や研究方法を確定していく。					
2. 到達目標					
特別演習 I では、研究テーマに関する先行研究や関連する周辺領域の研究を網羅的に蒐集し研究史を整理し、加えて研究テーマの妥当性や研究の意義などを検証していく。					
3. 授業の計画と内容					
第1週 研究の視点の提示と検討					
第2週 研究分野と研究領域の確認と検討					
第3週 研究方法の検討 (1)					
第4週 研究方法の検討 (2)					
第5週 研究課題の検討 (1)					
第6週 研究課題の検討 (2)					
第7週 研究課題の検討 (3)					
第8週 研究課題の検討 (4)					
第9週 研究領域の検討 (1)					
第10週 研究領域の検討 (2)					
第11週 研究領域の検討 (3)					
第12週 先行研究の解説 (1)					
第13週 先行研究の解説 (2)					
第14週 研究史の解説 (1)					
第15週 研究史の解説 (2)					
4. テキスト 特になし					
参考文献： 学生の研究課題やテーマ及び研究の進捗状況に応じて適宜、提示する。					
5. 準備学習					
先行研究・関連研究を精読し、問題となる箇所を整理して授業に臨むこと。					
6. 成績評価の方法					
研究課題・研究テーマの設定に至る考証の緻密性及び設定された研究課題・研究テーマの妥当性と独創性をみる					
7. 履修の条件					
中南米地域の文化触変に興味を抱いている学生を優先的に受講させる。					
8. その他					
講義の進行状況によって授業計画を変更することがある。					

科目番号	科目名	特別演習 I		担当教員：高嶺 司	
博国地 019	科目名 (英語)	Special Seminar I		E-mail: t.takamine@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	前期	2	503	演習終了後または予約による
1. 授業の概要					
アジア太平洋地域の国際関係や政治外交に関する博士論文執筆に向けて、研究テーマを設定し、研究の目的、独創性、学術的貢献、及び具体的な研究方法やタイムラインについて検討する。					
2. 到達目標					
研究テーマ、研究目的、独創性、研究方法などを明確にした博士論文プロポーザルを作成することで、博士研究を本格的にスタートさせていくための準備を行う。					
3. 授業の計画と内容					
第1週	ガイダンス：博士論文研究の意義について				
第2週	博士課程院生としての研究姿勢や研究倫理の確認				
第3週	学術的背景と研究テーマの検討				
第4週	学術的背景と研究テーマの検討				
第5週	学術的背景と研究テーマの検討				
第6週	研究の目的、独創性、学術的意義の検討				
第7週	研究の目的、独創性、学術的意義の検討				
第8週	研究の目的、独創性、学術的意義の検討				
第9週	研究の目的、独創性、学術的意義の検討				
第10週	研究方法とタイムラインの検討				
第11週	研究方法とタイムラインの検討				
第12週	研究方法とタイムラインの検討				
第13週	博士論文プロポーザルの作成				
第14週	博士論文プロポーザルの作成				
第15週	博士論文プロポーザルの完成・提出				
4. テキスト					
参考文献：授業の進捗状況に応じて、関連する参考文献や資料を適宜紹介する。					
5. 準備学習					
各課題について事前に整理した上で、批判的な検討をしながら授業に臨むこと。					
6. 成績評価の方法					
課題に対する取り組みと博士論文プロポーザルの完成度によって総合的に評価する。					
7. 履修の条件					
国際政治学や国際関係学関連分野についての興味と知識を有すること。					
8. その他					
授業の進行状況によって授業計画を変更することがある。授業は学生の希望によって、対面またはオンラインで実施する。					

科目番号	科目名	特別演習 I		担当教員：嘉納英明	
博国地 019	科目名 (英語)	Special Seminar I		Email: kano@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	前期	2	510	講義後の1時間程度
1. 授業の概要					
学校と地域の教育に関する博士論文のテーマに即した研究指導を行う。研究分野、テーマに関する先行研究や学会の研究動向に関する報告及び議論を通して、学生が主体的に研究テーマを設定し、その研究の意義を明らかにし、研究領域や研究方法を確定する。					
2. 到達目標					
特別演習 I では、研究テーマに関する先行研究や関連する周辺領域の研究を網羅的に収集し研究史を整理し、加えて研究テーマの妥当性や研究の意義を検証する。					
3. 授業の計画と内容					
第1週 研究課題の検討 (1)					
第2週 研究課題の検討 (2)					
第3週 研究方法の検討 (1)					
第4週 研究方法の検討 (2)					
第5週 研究課題の検討 (3)					
第6週 研究課題の検討 (4)					
第7週 研究課題の検討 (5)					
第8週 研究課題の検討 (6)					
第9週 研究領域の検討 (1)					
第10週 研究領域の検討 (2)					
第11週 研究領域の検討 (3)					
第12週 先行研究の解説 (1)					
第13週 先行研究の解説 (2)					
第14週 研究史の解説 (1)					
第15週 研究史の解説 (2)					
4. テキスト					
【テキスト】 特になし。					
【参考文献】 学生の研究課題やテーマ及び研究の進捗状況に応じて適宜、提示する。					
5. 準備学習					
毎回の講義に向けて事前準備を欠かさないこと。先行研究・関連研究を精読し、問題となる箇所を整理して授業に臨むこと。学校や地域の教育についても積極的にフィールドワークを行って欲しい。学校や地域の教育研究の場合、学校現場や地域の関連団体・機関とのネットワークづくりは重要である。日々、関係性構築の努力を惜しまないで欲しい。					
6. 成績評価の方法					
研究課題・研究テーマの設定にかかる報告・議論をみて総合的に評価する。					
7. 履修の条件					
学校や地域の教育、又は日本・沖縄の教育に興味を抱いている学生を優先的に受講させる。					
8. その他					
講義の進行状況によって授業計画を変更することがある。					

科目番号	科目名	特別演習 I		担当教員：渡慶次正則	
博国地 019	科目名 (英語)	Special Seminar I		m.tokeshi@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	前期	2	512	講義後 1 時間程度
3. 授業の概要					
博士論文のテーマ設定や焦点化、調査方法や研究倫理や第 2 言語習得論や言語能力評価、英語教授法、早期英語教育、英語教員養成などの関連文献を渉猟し、リサーチ・プロポーザルを行う。					
4. 到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・調査の問題点や重要性を明らかにし、博士課程の研究に相応しいテーマ設定を行う。 ・調査の目的を明確にし、関連した文献調査の範囲やデータ収集の範囲を明確にする。 ・リサーチ・プロポーザルを完成する。 ・「総合演習 I」で割り当てられた発表ができる様に準備と発表後の省察を行う。 					
3. 授業の計画と内容					
第 1 週	登録、講義のオリエンテーション、関連文献の提示、「総合演習 I」の発表準備				
第 2 週	「研究計画書」と「研究指導教員届」の提出と関連文献の発表、「総合演習 I」の発表準備 (省察)				
第 3 週	研究方法 (質的調査と量的調査)、関連文献の発表、「総合演習 I」の発表準備 (省察)				
第 4 週	研究方法 (質的調査のデータ収集と分析)、関連文献の発表、「総合演習 I」の発表準備 (省察)				
第 5 週	研究方法 (量的調査のデータ収集と分析)、関連文献の発表、「総合演習 I」の発表準備 (省察)				
第 6 週	調査の問題、目的を提出、関連文献の発表、「総合演習 I」の発表準備 (省察)				
第 7 週	研究方法 (リサーチ・デザイン)、関連文献の発表、「総合演習 I」の発表準備 (省察)				
第 8 週	研究方法 (研究倫理)、関連文献の発表、「総合演習 I」の発表準備 (省察)				
第 9 週	調査方法の決定、関連文献の発表、「総合演習 I」の発表準備 (省察)				
第 10 週	リサーチ・デザインを提出、関連文献の発表、「総合演習 I」の発表準備 (省察)				
第 11 週	関連文献の発表、「総合演習 I」の発表準備 (省察)				
第 12 週	文献研究を提出、関連文献の発表、「総合演習 I」の発表準備 (省察)				
第 13 週	関連文献の発表、「総合演習 I」の発表準備 (省察)				
第 14 週	リサーチ・プロポーザルを提出、関連文献の発表、「総合演習 I」の発表準備 (省察)				
第 15 週	演習 I のまとめ、「研究倫理申請書」の作成、今後の調査計画の確認				
4. テキスト					
【参考文献】					
Punch, F. K. (2005). <i>Introduction to social research. (2nd ed.)</i> Sage: London.					
Punch, F.K. (2016). <i>Developing Effective Research Proposals (3rd ed.)</i> . Sage: London.					
MacDonough, J, & McDonough, S. (1997). <i>Research methods for English language teachers</i>					
5. 準備学習					
演習の 2 日前までに関連文献のレジюмеを提出する。					
6. 成績評価の方法					
「調査の問題・目的」の提出		10 点			
「リサーチ・デザイン」の提出		10 点			
「リサーチ・プロポーザル」の提出		30 点			
関連文献レジюмеの提出		50 点			
合計		100 点			
7. 履修の条件					
事前に相談して、「研究指導教員届」を提出する者					
8. その他					
基本的に博士課程の研究を最優先にし、博士課程に相応しい研究活動を行い、自立した研究者を志すこと。					

科目番号	科目名	特別演習Ⅱ		担当教員：波照間 永吉	
博国地 020	科目名 (英語)	Special Seminar II		E-mail:e.hateruma@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	後期	2	227	講義後の1時間程度
1. 授業の概要					
琉球・沖縄文学に関する研究テーマに即して先行研究の検討を行い、作品および事例分析の精密化をはかる。また、研究テーマ周辺の作品・事例についても幅広い目配りを行えるようにする。					
2. 到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・先行研究論文の読み込みを進める。 ・研究テーマに関わる作品および事例分析の精密化を実現する。 ・琉球文学のみならず日本古代文学、民俗学・宗教学的領域についても文献の読み込みを進める。 					
3. 授業の計画と内容					
第1週 前学期の成果の確認と今学期の目標について確認する。					
第2週 テーマに即した作品・事例研究①					
第3週 テーマに即した作品・事例研究②					
第4週 テーマに即した作品・事例研究③					
第5週 作品研究①～③に関する先行研究の検討①					
第6週 作品研究①～③に関する先行研究の検討②					
第7週 テーマに即した作品・事例研究④					
第8週 テーマに即した作品・事例研究⑤					
第9週 テーマに即した作品・事例研究⑥					
第10週 テーマに即した作品・事例研究⑦					
第11週 作品研究④～⑦に関する先行研究の検討①					
第12週 作品研究④～⑦に関する先行研究の検討②					
第13週 作品研究の結果のとりまとめ (論文作成) ① (草稿検討)					
第14週 作品研究の結果のとりまとめ (論文完成) ② (草稿検討と完成)					
第15週 研究計画一年次のとりまとめ。達成と課題の検討					
4. テキスト					
【テキスト】					
外間守善『校注おもろさうし』(2000年・岩波書店)					
外間守善・波照間永吉『定本おもろさうし』(2002年・角川書店)					
外間守善・波照間永吉『定本琉球国由来記』(1997年・角川書店)					
外間守善他『南島歌謡大成 I～V』(1980年・角川書店)					
【参考文献】					
沖縄古語辞典編集委員会編『沖縄古語大辞典』(1995年・角川書店)					
玉城政美『南島歌謡論』(1991年・砂子屋書房)、外間守善『南島文学論』(1994年・角川書店)					
波照間永吉『南島祭祀歌謡の研究』(1999年・砂子屋書房)、玉城政美『琉球歌謡論』(2010年・砂子屋書房)					
5. 準備学習					
毎回の講義に向けて事前準備を欠かさないこと。特に先行研究論文の読み込みを積極的にを行い、テーマに関する研究状況を正確に理解すると共に、自己の方法論の構築に役立てる。奄美・沖縄の祭祀についても積極的にフィールドワークを行って欲しい。					
6. 成績評価の方法					
授業への取り組み(発表・意見交換)と作品・事例研究論文の完成度によって総合的に判断する。					
授業への取り組み：20% (リサーチ課題に関するディスカッションや論文執筆に関するディスカッションなど)					
報告書・論文：80%					
7. 履修の条件					
特になし。但し、事前学習を十全に行うこと。					
8. その他					
古文書の読みなどの必要のある場合は、変体仮名・漢字草書体の読みなどの基礎的な知識が求められる。講義の進行状況によって授業計画を変更することがある。					

科目番号	科目名	特別演習Ⅱ		担当教員：山里 純一	
博国地 020	科目名 (英語)	Special Seminar II		E-mail:j.yamazato@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	後期	2	225	講義後の1時間程度
1. 授業の概要					
南島地域の民俗文化の研究テーマに関連する先行研究の論点・問題点および研究史の整理を目的とした発表。					
2. 到達目標					
先行研究について完全に把握する。 研究史を正確に把握する。					
3. 授業の計画と内容					
第1週 「特別演習Ⅰ」の到達確認と本授業の取り組みについての検討					
第2週 先行研究の論点と問題点の整理 (1)					
第3週 先行研究の論点と問題点の整理 (2)					
第4週 先行研究の論点と問題点の整理 (3)					
第5週 先行研究の論点と問題点の整理 (4)					
第6週 先行研究の論点と問題点の整理 (5)					
第7週 先行研究の論点と問題点の整理 (6)					
第8週 先行研究の論点と問題点の整理 (7)					
第9週 先行研究の論点と問題点の整理 (8)					
第10週 研究史の整理 (1)					
第11週 研究史の整理 (2)					
第12週 研究史の整理 (3)					
第13週 研究史の整理 (4)					
第14週 研究史の整理 (5)					
第15週 授業の総括					
4. テキスト					
参考文献：授業を進める中で、課題に関連する参考文献を適宜紹介する。					
5. 準備学習					
幅広く民俗文化に関する論文を読みながら、特に研究テーマと結びつく先行研究はすべて精読し、論点と問題点を的確に整理して授業に臨むこと。					
6. 成績評価の方法					
発表の内容：70% 授業への取り組み：30% (リサーチ課題に関するディスカッションや論文執筆に関するディスカッションなど)					
7. 履修の条件					
「特別演習Ⅰ」を履修した者					
8. その他					
講義の進行状況によって授業計画を変更することがある。					

科目番号	科目名	特別演習Ⅱ		担当教員：赤嶺 守	
博国地 020	科目名 (英語)	Special Seminar II		E-mail:m.akamine@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	後期	2	226	講義後の1時間程度
1. 授業の概要					
中国・琉球関係史に関する博士論文の執筆に向けて、収集した関連史料の精読をおこない、引用史料としての立証性について検討する。					
2. 到達目標					
博士論文に関する史料を精読し、独創性の高い論考の完成をめざす。					
3. 授業の計画と内容					
第1週 関連史料の精読・検討・指導					
第2週 関連史料の精読・検討・指導					
第3週 関連史料の精読・検討・指導					
第4週 関連史料の精読・検討・指導					
第5週 関連史料の精読・検討・指導					
第6週 関連史料の精読・検討・指導					
第7週 関連史料の精読・検討・指導					
第8週 関連史料の精読・検討・指導					
第9週 関連史料の精読・検討・指導					
第10週 関連史料の精読・検討・指導					
第11週 関連史料の精読・検討・指導					
第12週 関連史料の精読・検討・指導					
第13週 関連史料の精読・検討・指導					
第14週 研究全体の引用史料（史料操作）の最終確認					
第15週 研究全体の引用史料（史料操作）の最終確認					
4. テキスト					
参考文献：授業を進める中で、課題に関連する参考資料を適宜提示する。					
5. 準備学習					
毎回、精読する関連史料を受講前に読み込んでおくこと。					
6. 成績評価の方法					
研究課題に対する取り組み（リサーチ課題に関するディスカッションや論文執筆に関するディスカッションなど）の深化の程度をみて総合的に評価する。					
7. 履修の条件					
漢文資料を多用する場合、漢文の一定の読解力を有すること。					
8. その他					
関連史料の収集に関しては、学期内に集中的に済ましておくことが望ましい。 講義の進行状況によって授業計画を変更することがある。					

科目番号	科目名	特別演習Ⅱ		担当教員：住江 淳司	
博国地 020	科目名 (英語)	Special Seminar II		E-mail:j.sumie@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	後期	2	224	火：10:30-12:00、 金：13:00-14:30
1. 授業の概要					
<p>研究テーマを決定するために、国内外の先行研究と現在の研究動向を十分に理解するために引き続き文献探索を行う。</p> <p>あわせて、研究テーマの妥当性や研究の意義を検証していく。</p>					
2. 到達目標					
<p>研究テーマに相当する先行研究（1次資料も含めて）を蒐集し、その先行研究を整理し、研究テーマの妥当性を検証しつつ研究史の作成に着手する。</p>					
3. 授業の計画と内容					
<p>第1週 先行研究の検討 (1)</p> <p>第2週 先行研究の検討 (2)</p> <p>第3週 先行研究の検討 (3)</p> <p>第4週 先行研究の検討 (4)</p> <p>第5週 先行研究の検討 (5)</p> <p>第6週 先行研究の検討 (6)</p> <p>第7週 先行研究の検討 (7)</p> <p>第8週 関連研究の解説 (1)</p> <p>第9週 関連する先行研究の解説 (1)</p> <p>第10週 関連する先行研究の解説 (2)</p> <p>第11週 関連する先行研究の解説 (3)</p> <p>第12週 研究史の作成 (1)</p> <p>第13週 研究史の作成 (2)</p> <p>第14週 研究史の作成 (3)</p> <p>第15週 研究テーマと研究方法の再検討</p>					
4. テキスト					
<p>参考文献：</p> <p>学生の研究課題やテーマ及び研究の進捗状況に応じて適宜、提示する。</p>					
5. 準備学習					
<p>授業での議論を踏まえて、多くの先行研究・関連周辺研究を精読し、まとめておくこと。</p>					
6. 成績評価の方法					
<p>1次資料を含む先行研究などの資料の博搜とその理解度、加えて研究テーマに応じた問題点の整理に妥当性がどれほどあるかを評価する。</p>					
7. 履修の条件					
<p>中南米地域の文化触変に興味のある学生を優先する。</p>					
8. その他					
<p>講義の進行状況によって授業計画を変更することがある。</p>					

科目番号	科目名	特別演習 II		担当教員：高嶺 司	
博国地 020	科目名 (英語)	Special Seminar II		E-mail: t.takamine@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	後期	2	503	演習終了後または予約による
1. 授業の概要					
アジア太平洋地域の国際関係や政治外交に関する博士論文執筆に向けて、先行研究の批判的検討と整理を行い、研究の中心となる理論的 (分析) アプローチの構築を試みる。					
2. 到達目標					
先行研究の批判的検討と理論的 (分析) アプローチの構築を行うことで、研究方法の妥当性を確認し、予見される問題点を明らかにする。					
3. 授業の計画と内容					
第1週 先行研究の批判的検討					
第2週 先行研究の批判的検討					
第3週 先行研究の批判的検討					
第4週 先行研究の批判的検討					
第5週 先行研究の批判的検討					
第6週 先行研究の整理					
第7週 先行研究の整理					
第8週 先行研究のまとめ					
第9週 理論的 (分析) アプローチの検討					
第10週 理論的 (分析) アプローチの検討					
第11週 理論的 (分析) アプローチの検討					
第12週 理論的 (分析) アプローチの検討					
第13週 理論的 (分析) アプローチの構築					
第14週 理論的 (分析) アプローチの構築					
第15週 先行研究、理論的アプローチ、研究方法についての妥当性や問題点の確認					
4. テキスト					
参考文献：授業の進捗状況に応じて、関連する参考文献や資料を適宜紹介する。					
5. 準備学習					
各課題について事前に整理した上で、批判的検討を行いながら授業に臨むこと。					
6. 成績評価の方法					
課題に対する取り組みと先行研究の検討及び理論的アプローチの構築に関する完成度によって総合的に評価する。					
7. 履修の条件					
前提科目の「特別演習 I」を履修していること。 国際政治学や国際関係学関連分野についての興味と知識を有すること。					
8. その他					
授業の進行状況によって授業計画を変更することがある。授業は学生の希望によって、対面またはオンラインで実施する。					

科目番号	科目名	特別演習Ⅱ		担当教員：嘉納英明	
博国地 20	科目名（英語）	Special Seminar		Email: kano@meior-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	後期	2	510	講義後の1時間程度
1. 授業の概要					
<p>学校と地域の教育に関する博士論文のテーマに即した研究指導を行う。研究テーマを決定するために、国内外の先行研究と現在の研究動向を理解するために文献探索を行う。あわせて、研究テーマの妥当性や研究の意義を検証する。特に、序章の中の「研究史」の作成について集中的に指導する。</p>					
2. 到達目標					
<p>研究テーマに相当する先行研究（1次資料も含めて）を収集し、その先行研究を整理し、研究テーマの妥当性を検証しつつ研究史の作成に着手する。</p>					
3. 授業の計画と内容					
第1週	先行研究の批判的検討	報告・討論	(1)		
第2週	先行研究の批判的検討	報告・討論	(2)		
第3週	先行研究の批判的検討	報告・討論	(3)		
第4週	先行研究の批判的検討	報告・討論	(4)		
第5週	先行研究の批判的検討	報告・討論	(5)		
第6週	先行研究の批判的検討	報告・討論	(6)		
第7週	先行研究の批判的検討	報告・討論	(7)		
第8週	関連研究の解説				
第9週	関連する先行研究の解説（1）				
第10週	関連する先行研究の解説（2）				
第11週	関連する先行研究の解説（3）				
第12週	研究史の作成（1）				
第13週	研究史の作成（2）				
第14週	研究史の作成（3）				
第15週	研究テーマと研究方法の再検討				
4. テキスト					
<p>【テキスト】 特になし。</p> <p>【参考文献】 学生の研究課題やテーマ及び研究の進捗状況に応じて適宜、提示する。</p>					
5. 準備学習					
<p>毎回の講義に向けて事前準備を欠かさないこと。授業での議論を踏まえて、多くの先行研究・関連周辺研究を精読し、まとめておくこと。学校や地域の教育についても積極的にフィールドワークを行って欲しい。学校や地域の教育研究の場合、学校現場や地域の関連団体・機関とのネットワークづくりは重要である。日々、関係性構築の努力を惜しまないで欲しい。</p>					
6. 成績評価の方法					
<p>1次資料を含む先行研究等の収集と理解、加えて研究テーマに応じた問題点の整理についての報告と議論をみて、総合的に評価する。</p>					
7. 履修の条件					
<p>学校と地域の教育、又は日本・沖縄の教育に興味を抱いている学生を優先的に受講させる。</p>					
8. その他					
<p>講義の進行状況によって授業計画を変更することがある。</p>					

科目番号	科目名	特別演習 II		担当教員：渡慶次正則	
博国地 020	科目名 (英語)	Special Seminar II		m.tokeshi@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	後期	2	512	講義後 1 時間程度
1. 授業の概要					
第 2 言語習得論や言語能力評価、英語教授法、早期英語教育、英語教員養成などの関連文献を渉猟し、「第 1 回中間発表」の準備を行う。					
2. 到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・調査の目的に焦点化した文献調査の範囲やデータ収集の範囲を明確にする。 ・「第 1 回中間発表」資料を完成する。 ・博士論文の Thesis statement, Introduction (draft) を完成させる。 					
3. 授業の計画と内容					
第 1 週	登録、講義のオリエンテーション、進捗状況の確認、関連文献の提示				
第 2 週	関連文献レジュメの提出と演習内討論、調査方法の検討				
第 3 週	関連文献レジュメの提出と演習内討論、調査方法の検討				
第 4 週	関連文献レジュメの提出と演習内討論、調査方法の検討				
第 5 週	関連文献レジュメの提出と演習内討論、調査方法の検討				
第 6 週	“Thesis Statement” を提出、関連文献レジュメの提出と演習内討論、調査方法の検討				
第 7 週	関連文献レジュメの提出と演習内討論、調査方法の検討				
第 8 週	アンケート/インタビュー/観察計画書を提出と演習内討論				
第 9 週	関連文献レジュメの提出と演習内討論				
第 10 週	関連文献レジュメの提出と演習内討論				
第 11 週	関連文献レジュメの提出と演習内討論				
第 12 週	「研究倫理申請書」を指導教員へ提出と演習内討論				
第 13 週	「序章(Introduction)」草稿の提出と演習内討論				
第 14 週	「第 1 回中間発表」資料を指導教員へ提出				
第 15 週	演習 II のまとめ、今後の調査計画の確認				
4. テキスト					
【参考文献】					
Ellis, R. (2004). <i>The study of second language acquisition (2nd)</i> . Hong Kong: Oxford University Press.					
Bachman, L.F. (1990). <i>Fundamental considerations in language testing</i> . Oxford: Oxford University Press.					
Richards, J., & Rogers, T.S. (2014). <i>Approaches and methods in language teaching (3rd ed.)</i> . Cambridge: Cambridge University Press.					
5. 準備学習					
演習の 2 日前までに関連文献のレジュメを提出する。					
6. 成績評価の方法					
Thesis Statement の提出					10 点
「アンケート/インタビュー/観察計画書」の提出					10 点
「研究倫理書」の提出					10 点
「第 1 回中間発表」資料提出					10 点
「序章(Introduction)」草稿の提出					30 点
関連文献レジュメの提出					30 点
合計					100 点
7. 履修の条件					
特になし					
8. その他:					
博士課程に相応しい研究活動を行い、自立した研究者を志すこと。					

科目番号	科目名	特別演習Ⅲ		担当教員：波照間 永吉	
博国地 021	科目名 (英語)	Special Seminar III		E-mail:e.hateruma@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	2	前期	2	227	講義後の1時間程度
1. 授業の概要					
琉球・沖縄文学に関する博士論文執筆に向けて、作品分析の精密化をはかるとともに対象作品の範囲の拡大を目指す。研究テーマ周辺の作品についても幅広い目配りを行えるようにする。先行研究の探索と検討を継続して行う。なお、学位論文の構想に基づき、各章・各節の具体的執筆指導を行う。					
2. 到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・先行研究論文の読み込みと検討を進める。 ・研究テーマに関わる作品分析の精密化を実現し、対象を拡大する。 ・琉球文学のみならず日本古代文学、民俗学・宗教学的領域についても文献の読み込みを進める。 ・学位論文の構想を完成し執筆を進める。 					
3. 授業の計画と内容					
第1週 前学年度の成果の確認と今年度および今学期の目標について確認する。					
第2週 学位論文の全体構成の検討					
第3週 テーマに即した作品・事例研究①					
第4週 テーマに即した作品・事例研究②					
第5週 作品研究①～②に関する先行研究の検討①					
第6週 作品研究①～②に関する先行研究の検討②					
第7週 テーマに即した作品・事例研究③					
第8週 テーマに即した作品・事例研究④					
第9週 テーマに即した作品・事例研究⑤					
第10週 作品・事例研究③～⑤に関する先行研究の検討①					
第11週 作品・事例研究③～⑤に関する先行研究の検討②					
第12週 作品・事例研究の結果のとりまとめ (論文作成) ① (草稿検討)					
第13週 作品・事例研究の結果のとりまとめ (論文完成) ② (草稿検討と完成)					
第14週 博士論文の進捗状況の報告と検討。全体構成の検討①					
第15週 博士論文の進捗状況の報告と検討。全体構成の検討②					
4. テキスト					
【テキスト】					
外間守善『校注おもろさうし』(2000年・岩波書店)、外間守善・波照間永吉『定本おもろさうし』(2002年・角川書店)、外間守善・波照間永吉『定本琉球国由来記』(1997年・角川書店)、外間守善他『南島歌謡大成 I～V』(1980年・角川書店)					
【参考文献】					
沖縄古語辞典編集委員会編『沖縄古語大辞典』(1995年・角川書店)、玉城政美『南島歌謡論』(1991年・砂子屋書房)、外間守善『南島文学論』(1994年・角川書店)、波照間永吉『南島祭祀歌謡の研究』(1999年・砂子屋書房) 玉城政美『琉球歌謡論』(2010年・砂子屋書房)、比嘉康雄『神々の古層』(写真集・全12巻)(1990年～1994年・ニライ社)、比嘉康雄『沖縄 久高島』(1997年・第一書房)					
5. 準備学習					
毎回の講義に向けて事前準備を欠かさないこと。特に先行研究論文の読み込みを積極的に行い、テーマに関する研究状況を正確に理解すると共に、自己の方法論の構築に役立てる。奄美・沖縄の祭祀についても積極的にフィールドワークを行う。					
6. 成績評価の方法					
授業への取り組み(発表・意見交換)と作品・事例研究論文の完成度によって総合的に判断する。 授業への取り組み：20% (リサーチ課題に関するディスカッションや論文執筆に関するディスカッションなど) 報告書・論文：80%					

7. 履修の条件
特になし。但し、事前学習を十全に行うこと。
8. その他
古文書の読みなどの必要のある場合は、変体仮名・漢字草書体の読みなどの基礎的な知識が求められる。 講義の進行状況によって授業計画を変更することがある。

科目番号	科目名	特別演習Ⅲ		担当教員：山里 純一	
博国地 021	科目名 (英語)	Special Seminar Ⅲ		E-mail:j.yamazato@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	2	前期	2	225	講義後の1時間程度
1. 授業の概要					
南島地域の民俗文化に関する研究テーマに即した文献およびフィールド調査資料の分析・検討を踏まえた研究発表。					
2. 到達目標					
研究テーマに即した文献およびフィールド調査の分析・検討を通じて研究のオリジナリティを高める。					
3. 授業の計画と内容					
第1週 「特別演習Ⅱ」の成果と反省を踏まえた本授業の取り組みの検討					
第2週 文献資料の収集と整理 (1)					
第3週 文献資料の収集と整理 (2)					
第4週 文献資料の収集と整理 (3)					
第5週 文献資料の収集と整理 (4)					
第6週 フィールド調査の成果と整理 (1)					
第7週 フィールド調査の成果と整理 (2)					
第8週 フィールド調査の成果と整理 (3)					
第9週 フィールド調査の成果と整理 (4)					
第10週 収集資料の分析・検討 (1)					
第11週 収集資料の分析・検討 (2)					
第12週 収集資料の分析・検討 (3)					
第13週 収集資料の分析・検討 (4)					
第14週 収集資料の分析・検討 (5)					
第15週 授業の総括					
4. テキスト					
参考文献：授業を進める中で、課題に関連する参考文献を適宜紹介する。					
5. 準備学習					
文献資料の収集とフィールドワークを行った上で授業に臨むこと。					
6. 成績評価の方法					
文献資料の収集と分析力 (50%)					
フィールド調査の内容と分析力 (50%)					
7. 履修の条件					
「特別演習Ⅰ」・「特別演習Ⅱ」を履修した者					
8. その他					
講義の進行状況によって授業計画を変更することがある。					

科目番号	科目名	特別演習Ⅲ		担当教員：赤嶺 守	
博国地 021	科目名 (英語)	Special Seminar Ⅲ		E-mail:m.akamine@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	2	前期	2	226	講義後の1時間程度
1. 授業の概要					
中国・琉球関係史に関する博士論文の執筆に向けて、体系的且つ精緻なデータベースの構築と解析をおこない、論考の実証性について検証する。					
2. 到達目標					
体系的且つ精緻なデータベースの構築と解析を通して、実証性の高い論文の完成をめざす。					
3. 授業の計画と内容					
第1週	執筆に繋げるデータベースの構築及び解析・検討				
第2週	執筆に繋げるデータベースの構築及び解析・検討				
第3週	執筆に繋げるデータベースの構築及び解析・検討				
第4週	執筆に繋げるデータベースの構築及び解析・検討				
第5週	執筆に繋げるデータベースの構築及び解析・検討				
第6週	執筆に繋げるデータベースの構築及び解析・検討				
第7週	執筆に繋げるデータベースの構築及び解析・検討				
第8週	執筆に繋げるデータベースの構築及び解析・検討				
第9週	執筆に繋げるデータベースの構築及び解析・検討				
第10週	執筆に繋げるデータベースの構築及び解析・検討				
第11週	執筆に繋げるデータベースの構築及び解析・検討				
第12週	執筆に繋げるデータベースの構築及び解析・検討				
第13週	データベース全体の解析及びその実証性・整合性の確認				
第14週	データベース全体の解析及びその実証性・整合性の確認				
第15週	データベース全体の解析及びその実証性・整合性の確認				
4. テキスト					
参考文献：授業を進める中で、課題に関連する参考資料を適宜提示する。					
5. 準備学習					
事前に、受講者は講義で取り扱うデータの入力・確認を済まし、一定の解析を済ませておくこと。					
6. 成績評価の方法					
研究課題に対する取り組みの深化の程度をみて総合的に評価する。					
7. 履修の条件					
データベースの作成にはエクセルを使用する。受講者はエクセル操作のリテラシーを身につけていること。					
8. その他					
講義の進行状況によって授業計画を変更することがある。					

科目番号	科目名	特別演習Ⅲ		担当教員：住江 淳司	
博国地 021	科目名 (英語)	Special Seminar Ⅲ		E-mail:j.sumie@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	2	前期	2	224	火：10:30-12:00、 金：13:00-14:30
1. 授業の概要					
中南米地域文化に関する博士論文執筆に向けて、研究に必要な1次資料・2次資料を博捜するための文献探索方法を、必要であれば図書館司書と協力して行う。					
2. 到達目標					
研究テーマに即した1次資料・2次資料それに視聴覚資料を、学生独自で博捜できるように指導する。					
3. 授業の計画と内容					
第1週	国内外の1次資料・2次資料の博捜方法の指導 (1)				
第2週	国内外の1次資料・2次資料の博捜方法の指導 (2)				
第3週	図書館を使った資料の博捜実習 (1)				
第4週	図書館を使った資料の博捜実習 (2)				
第5週	図書館を使った資料の博捜実習 (3)				
第6週	蒐集した資料の文献リストの作成 (1)				
第7週	蒐集した資料の文献リストの作成 (2)				
第8週	蒐集資料の読解と分析 (1)				
第9週	蒐集資料の読解と分析 (2)				
第10週	蒐集資料の読解と分析 (3)				
第11週	蒐集資料の読解と分析 (4)				
第12週	蒐集資料の読解と分析 (5)				
第13週	蒐集資料の読解と分析 (6)				
第14週	蒐集資料の読解と分析結果の整理 (1)				
第15週	蒐集資料の読解と分析結果の整理 (2)				
4. テキスト 特になし。					
参考文献： 学生の研究課題やテーマ及び研究の進捗状況に応じて適宜、提示する。					
5. 準備学習					
蒐集した資料に関しては、内容を事前に精読しかつ整理して授業に臨むこと。					
6. 成績評価の方法					
蒐集した資料の状況と整理具合を評価し、資料の読解・分析状況も評価対象とする。					
7. 履修の条件					
中南米地域の文化触変に興味のある学生を優先する。					
8. その他					
講義の進行状況によって授業計画を変更することがある。					

科目番号	科目名	特別演習 III		担当教員：高嶺 司	
博国地 021	科目名 (英語)	Special Seminar III		E-mail: t.takamine@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	2	前期	2	503	演習終了後または予約による
1. 授業の概要					
アジア太平洋地域の国際関係や政治外交に関する博士論文執筆に向けて、論文全体の構成、フィールド調査やインタビュー調査の検討、収集文献・資料・データの分析と整理を行う。					
2. 到達目標					
博士論文全体を構成し、フィールド調査やインタビュー調査の検討を行い、収集文献・資料・データの分析と整理することで、論文執筆に向けた準備をする。					
3. 授業の計画と内容					
第1週 博士論文全体の構成の検討					
第2週 博士論文全体の構成の検討					
第3週 博士論文全体の構成の検討					
第4週 博士論文の各章題、各節題の検討					
第5週 博士論文の各章題、各節題の草案の完成					
第6週 フィールド調査やインタビュー調査の検討					
第7週 フィールド調査やインタビュー調査の検討					
第8週 フィールド調査やインタビュー調査の検討					
第9週 収集文献・資料・データの分析と整理					
第10週 収集文献・資料・データの分析と整理					
第11週 収集文献・資料・データの分析と整理					
第12週 収集文献・資料・データの分析と整理					
第13週 収集文献・資料・データの分析と整理					
第14週 収集文献・資料・データの分析と整理					
第15週 収集文献・資料・データの分析と整理					
4. テキスト					
参考文献：授業の進捗状況に応じて、関連する参考文献や資料を適宜紹介する。					
5. 準備学習					
各課題について事前に整理した上で、批判的な検討をしながら授業に臨むこと。					
6. 成績評価の方法					
課題に対する取り組みと博士論文全体の構成、フィールド調査やインタビュー調査の検討、収集文献・資料・データの分析に関する完成度によって総合的に評価する。					
7. 履修の条件					
前提科目の「特別演習 I, II」を履修していること。 国際政治学や国際関係学関連分野についての興味と知識を有すること。					
8. その他					
授業の進行状況によって授業計画を変更することがある。授業は学生の希望によって、対面またはオンラインで実施する。					

科目番号	科目名	特別演習Ⅲ		担当教員：嘉納英明	
博国地 021	科目名 (英語)	Special SeminarⅢ		Email: kano@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	2	前期	2	5 1 0	講義後の1時間程度
1. 授業の概要					
学校と地域の教育に関する博士論文のテーマに即した研究指導を行う。学校と地域の教育に関する博士論文執筆に向けて、研究に必要な1次資料・2次資料の文献探索方法を獲得する。					
2. 到達目標					
研究テーマに関連した1次資料・2次資料それに視覚的資料を、学生独自の視点で収集できるように指導する。					
3. 授業の計画と内容					
第1週	1次資料・2次資料の探索方法の指導 (1)				
第2週	1次資料・2次資料の探索方法の指導 (2)				
第3週	文献リストの作成 (1)				
第4週	文献リストの作成 (2)				
第5週	文献リストの作成 (3)				
第6週	文献リストの作成 (4)				
第7週	文献リストの作成 (5)				
第8週	資料の読解と分析 (1)				
第9週	資料の読解と分析 (2)				
第10週	資料の読解と分析 (3)				
第11週	資料の読解と分析 (4)				
第12週	資料の読解と分析 (5)				
第13週	資料の読解と分析 (6)				
第14週	資料の読解と分析結果の整理 (1)				
第15週	資料の読解と分析結果の整理 (2)				
4. テキスト					
【テキスト】 特になし。					
【参考文献】 学生の研究課題やテーマ及び研究の進捗状況に応じて適宜、提示する。					
5. 準備学習					
収集した資料については、内容を事前に精読しかつ整理して授業に臨むこと。学校や地域の教育についても積極的にフィールドワークを行って欲しい。					
6. 成績評価の方法					
収集した資料の状況と整理具合を評価し、資料の読解・分析状況も評価対象とする。					
7. 履修の条件					
学校と地域の教育、又は日本・沖縄の教育に興味を抱いている学生を優先的に受講させる。					
8. その他					
講義の進行状況によって授業計画を変更することがある。					

科目番号	科目名	特別演習 III		担当教員：渡慶次正則	
博国地 021	科目名 (英語)	Special Seminar III		m.tokeshi@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	2	前期	2	512	講義後 1 時間程度
1. 授業の概要					
リサーチ・クエスチョンに答えるデータを収集し、「調査方法」の章をまとめる。関連文献を渉猟し、文献研究を執筆する研究環境を整える。					
2. 到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・調査の目的に答える、データ収集を実施する。 ・「調査方法」の章を完成する。 ・「総合演習 II」で割り当てられた発表ができる様に準備と発表後の省察を行う。 					
3. 授業の計画と内容					
第 1 週	登録、講義のオリエンテーション、「学位請求論文作成計画書」の確認、「総合演習 II」の発表準備				
第 2 週	データ収集進捗状況の確認、関連文献レジユメの提出、「総合演習 II」の発表準備 (省察)				
第 3 週	データ収集進捗状況の確認、関連文献レジユメの提出、「総合演習 II」の発表準備 (省察)				
第 4 週	データ収集進捗状況の確認、関連文献レジユメの提出、「総合演習 II」の発表準備 (省察)				
第 5 週	データ収集進捗状況の確認、関連文献レジユメの提出、「総合演習 II」の発表準備 (省察)				
第 6 週	データ収集進捗状況の確認、関連文献レジユメの提出、「総合演習 II」の発表準備 (省察)				
第 7 週	データ収集進捗状況の確認、関連文献レジユメの提出、「総合演習 II」の発表準備 (省察)				
第 8 週	データ収集進捗状況の確認、関連文献レジユメの提出、「総合演習 II」の発表準備 (省察)				
第 9 週	データ収集進捗状況の確認、関連文献レジユメの提出、「総合演習 II」の発表準備 (省察)				
第 10 週	データ収集進捗状況の確認、関連文献レジユメの提出、「総合演習 II」の発表準備 (省察)				
第 11 週	データ収集進捗状況の確認、関連文献レジユメの提出、「総合演習 II」の発表準備 (省察)				
第 12 週	データ収集進捗状況の確認、関連文献レジユメの提出、「総合演習 II」の発表準備 (省察)				
第 13 週	データ収集進捗状況の確認、関連文献レジユメの提出、「総合演習 II」の発表準備 (省察)				
第 14 週	「調査方法」完成草稿提出、関連文献レジユメの提出、「総合演習 II」の発表準備 (省察)				
第 15 週	演習 III のまとめ、今後の調査計画の確認				
4. テキスト					
【参考文献】					
Punch, F. K. (2005). <i>Introduction to social research. (2nd ed.)</i> Sage: London.					
Punch, F.K. (2016). <i>Developing Effective Research Proposals (3rd ed.)</i> . Sage: London.					
MacDonough, J, & McDonough, S. (1997). <i>Research methods for English language teachers</i>					
5. 準備学習					
演習の 2 日前までに関連文献のレジユメを提出する。					
6. 成績評価の方法					
「調査方法」章の草稿提出		50 点			
関連文献レジユメの提出		50 点			
合計		100 点			
7. 履修の条件					
特になし					
8. その他					
研究成果の一部を査読付きの学会誌に学術論文として投稿する。					

科目番号	科目名	特別演習IV		担当教員：波照間 永吉	
博国地 022	科目名 (英語)	Special Seminar IV		E-mail: e.hateruma@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	2	後期	2	227	講義後の1時間程度
1. 授業の概要					
琉球・沖縄文学に関する博士論文を支える作品・事例の正確な分析ができるように指導するとともに、博士論文の構想に基づき、各章・各節の執筆が進むよう具体的指導を行う。指導は、論証のための資料の的確性、論文の実証性、論理展開の的確性、結論の妥当性などにポイントをおいて行う。					
2. 到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマに関わる作品・事例分析の精密化を実現し、対象を拡大する。 ・博士論文の構想に基づいて論文の執筆を進める。 ・個々の論文の有機的なつながりに留意して執筆することができる。 					
3. 授業の計画と内容					
第1週 博士論文の全体構成の検討を行い、論文各章の執筆計画を検討・確認する。					
第2週 博士論文草稿の検討と指導①					
第3週 博士論文草稿の検討と指導②					
第4週 博士論文草稿の検討と指導③					
第5週 博士論文草稿の検討と指導④					
第6週 博士論文草稿の検討と指導⑤					
第7週 博士論文草稿の検討と指導⑥					
第8週 博士論文草稿の検討と指導⑦					
第9週 博士論文草稿の検討と指導⑧					
第10週 博士論文草稿の検討と指導⑨					
第11週 博士論文草稿の検討と指導⑩					
第12週 博士論文草稿の検討と指導⑪					
第13週 博士論文草稿の検討と指導⑫					
第14週 学位論文の進捗状況の確認。全体構成の検討①					
第15週 学位論文の進捗状況の確認。全体構成の検討②。博士課程二年次の総括。					
4. テキスト					
【テキスト】					
外間守善『校注おもろさうし』(2000年・岩波書店)、外間守善・波照間永吉『定本おもろさうし』(2002年・角川書店)、外間守善・波照間永吉『定本琉球国由来記』(1997年・角川書店)、外間守善他『南島歌謡大成 I～V』(1980年・角川書店)					
【参考文献】					
沖縄古語辞典編集委員会編『沖縄古語大辞典』(1995年・角川書店)、玉城政美『南島歌謡論』(1991年・砂子屋書房)、外間守善『南島文学論』(1994年・角川書店)、波照間永吉『南島祭祀歌謡の研究』(1999年・砂子屋書房) 玉城政美『琉球歌謡論』(2010年・砂子屋書房)、比嘉康雄『神々の古層』(写真集・全12巻)(1990年～1994年・ニライ社)、比嘉康雄『沖縄 久高島』(1997年・第一書房)					
5. 準備学習					
毎回の講義に向けて事前準備を欠かさないこと。特に先行研究論文の読み込みを積極的に行い、テーマに関する研究状況を正確に理解すると共に、自己の方法論の構築に役立てる。奄美・沖縄の祭祀についても積極的にフィールドワークを行う。					
6. 成績評価の方法					
授業への取り組み(発表・意見交換)と作品・事例研究論文の完成度によって総合的に判断する作品・事例研究論文の完成度によって総合的に判断する。					
授業への取り組み：20% (リサーチ課題に関するディスカッションや論文執筆に関するディスカッションなど)					
報告書・論文：80%					

7. 履修の条件
特になし。但し、事前学習を十全に行うこと。
8. その他
古文書の読みなどの必要のある場合は、変体仮名・漢字草書体の読みなどの基礎的な知識が求められる。 講義の進行状況によって授業計画を変更することがある。

科目番号	科目名	特別演習IV		担当教員：山里 純一	
博国地 022	科目名 (英語)	Special Seminar IV		E-mail:j.yamazato@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	2	後期	2	225	講義後の1時間程度
1. 授業の概要					
南島地域の民俗文化に関する学位論文の全体的な構想を固めるために発表と検討を行う。					
2. 到達目標					
学位論文の目次が提示できる。					
3. 授業の計画と内容					
第1週 学位論文の全体的な構想の発表 (1)					
第2週 学位論文の全体的な構想の発表 (2)					
第3週 学位論文の全体的な構想の発表 (3)					
第4週 学位論文の全体的な構想の発表 (4)					
第5週 学位論文の全体的な構想の発表 (5)					
第6週 学位論文の全体的な構想の発表 (6)					
第7週 学位論文の全体的な構想の発表 (7)					
第8週 学位論文の全体的な構想の発表 (8)					
第9週 学位論文の全体的な構想の発表 (9)					
第10週 学位論文の全体的な構想の発表 (10)					
第11週 学位論文目次案の提示と検討 (1)					
第12週 学位論文目次案の提示と検討 (2)					
第13週 学位論文目次案の提示と検討 (3)					
第14週 学位論文目次案の提示と検討 (4)					
第15週 授業の総括					
4. テキスト					
参考文献：授業を進める中で、課題に関連する参考文献を適宜紹介する。					
5. 準備学習					
学位論文の構想および目次案については、その中身がよくわかるように、十分整理しておくこと。					
6. 成績評価の方法					
構想への取り組み：30% (リサーチ構想に関するディスカッションや論文執筆に関するディスカッションなど) 学位論文目次案の提出：70%					
7. 履修の条件					
特別演習 I・II・IIIを履修した者					
8. その他					
講義の進行状況によって授業計画を変更することがある。					

科目番号	科目名	特別演習IV		担当教員：赤嶺 守	
博国地 022	科目名 (英語)	Special Seminar IV		E-mail:m.akamine@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	2	後期	2	226	講義後の1時間程度
1. 授業の概要					
中国・琉球関係史に関する博士論文の執筆に取りかかる。史料やデータベースを駆使した論理の展開の妥当性について検討し、全体の構想の充足を図る。					
2. 到達目標					
新史料や精緻なデータベース情報を駆使し先行研究を超える創造性のある体系的な理論構築を目指す。					
3. 授業の計画と内容					
第1週	各章の執筆及び史料・データベースと論理の展開における妥当性のプロポーザル・検討				
第2週	各章の執筆及び史料・データベースと論理の展開における妥当性のプロポーザル・検討				
第3週	各章の執筆及び史料・データベースと論理の展開における妥当性のプロポーザル・検討				
第4週	各章の執筆及び史料・データベースと論理の展開における妥当性のプロポーザル・検討				
第5週	各章の執筆及び史料・データベースと論理の展開における妥当性のプロポーザル・検討				
第6週	各章の執筆及び史料・データベースと論理の展開における妥当性のプロポーザル・検討				
第7週	各章の執筆及び史料・データベースと論理の展開における妥当性のプロポーザル・検討				
第8週	各章の執筆及び史料・データベースと論理の展開における妥当性のプロポーザル・検討				
第9週	各章の執筆及び史料・データベースと論理の展開における妥当性のプロポーザル・検討				
第10週	各章の執筆及び史料・データベースと論理の展開における妥当性のプロポーザル・検討				
第11週	各章の執筆及び史料・データベースと論理の展開における妥当性のプロポーザル・検討				
第12週	各章の執筆及び史料・データベースと論理の展開における妥当性のプロポーザル・検討				
第13週	研究全体における史料・データベースの引用と論理の展開における整合性について検討、指導				
第14週	研究全体における史料・データベースの引用と論理の展開における整合性について検討、指導				
第15週	研究全体における史料・データベースの引用と論理の展開における整合性について検討、指導				
4. テキスト					
参考文献：授業を進める中で、課題に関連する参考資料を適宜提示する。					
5. 準備学習					
事前に、受講者は講義で取り扱う論理の展開における妥当性のプロポーザルを準備しておくこと。					
6. 成績評価の方法					
研究課題に対する取り組み（リサーチ課題に関するディスカッションや論文執筆に関するディスカッションなど）の深化の程度をみて総合的に評価する。					
7. 履修の条件					
特になし。					
8. その他					
受講者は、先行研究と自らが行う研究の相違を明確にし、学術的な研究意義を意識しながら執筆活動に取りかかること。 講義の進行状況によって授業計画を変更することがある。					

科目番号	科目名	特別演習IV		担当教員：住江 淳司	
博国地 022	科目名 (英語)	Special Seminar IV		E-mail:j.sumie@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	2	後期	2	224	火：10:30-12:00、 金：13:00-14:30
1. 授業の概要					
中南米地域文化に関する博士論文執筆に向けて、研究史の推敲、国内外で蒐集した資料の分析・検討などを踏まえ、学位論文の構想を検証する。					
2. 到達目標					
学位論文の草稿の完成を目指して準備を進める。					
3. 授業の計画と内容					
第1週	学位論文の全体的な構想とその検証 (1)				
第2週	学位論文の全体的な構想とその検証 (2)				
第3週	学位論文の全体的な構想とその検証 (3)				
第4週	学位論文の各論の構想とその検証 (1)				
第5週	学位論文の各論の構想とその検証 (2)				
第6週	学位論文の各論の構想とその検証 (3)				
第7週	学位論文の各論の構想とその検証 (4)				
第8週	学位論文の各論の構想とその検証 (5)				
第9週	学位論文の各論の構想とその検証 (6)				
第10週	学位論文の各論の構想とその検証 (7)				
第11週	学位論文の各論の構想とその検証 (8)				
第12週	学位論文の各論の構想とその検証 (9)				
第13週	学位論文の各論の構想とその検証 (10)				
第14週	学位論文の各論の構想とその検証 (11)				
第15週	学位論文の全体的な構想と各論の構想との整合性の検証				
4. テキスト					
参考文献： 学生の研究課題やテーマ及び研究の進捗状況に応じて適宜、提示する。					
5. 準備学習					
蒐集した資料については、内容を把握し、熟考して授業に臨むこと。					
6. 成績評価の方法					
蒐集した資料状況と整理及び資料の読解・分析の進捗状況によって判断する。					
7. 履修の条件					
中南米地域の文化触変に興味のある学生を優先する。					
8. その他					
講義の進行状況によって授業計画を変更することがある。					

科目番号	科目名	特別演習 IV		担当教員：高嶺 司	
博国地 022	科目名 (英語)	Special Seminar IV		E-mail: t.takamine@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	2	後期	2	503	演習終了後または予約による
1. 授業の概要					
アジア太平洋地域の国際関係や政治外交に関する博士論文の各章の執筆を行い、執筆内容のレビューをもとに論文全体の構成の再検討と修正を行う。					
2. 到達目標					
各章の執筆を進めつつ、執筆内容のレビューをもとに論文全体の構成を完成させる。					
3. 授業の計画と内容					
第1週	各章の執筆と指導				
第2週	各章の執筆と指導				
第3週	各章の執筆と指導				
第4週	各章の執筆と指導				
第5週	各章の執筆と指導				
第6週	各章の執筆と指導				
第7週	各章の執筆と指導				
第8週	各章の執筆と指導				
第9週	各章の執筆と指導				
第10週	各章の執筆と指導				
第11週	各章の執筆と指導				
第12週	各章の執筆と指導				
第13週	各章の執筆と指導				
第14週	論文全体の構成の再検討				
第15週	論文全体の構成の再検討と (必要に応じて) 修正				
4. テキスト					
参考文献：授業の進捗状況に応じて、関連する参考文献や資料を適宜紹介する。					
5. 準備学習					
各章の執筆を進捗させつつ、内容についての批判的な検討をしながら授業に臨むこと。					
6. 成績評価の方法					
各章執筆の進捗状況と論文構成の再検討・修正に関する完成度によって総合的に評価する。					
7. 履修の条件					
前提科目の「特別演習 I, II, III」を履修していること。 国際政治学や国際関係学関連分野についての興味と知識を有すること。					
8. その他					
授業の進行状況によって授業計画を変更することがある。授業は学生の希望によって、対面またはオンラインで実施する。					

科目番号	科目名	特別演習Ⅳ		担当教員：嘉納英明	
博国地 022	科目名 (英語)	Special SeminarⅣ		Email: kano@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	2	後期	2	510	講義後の1時間程度
1. 授業の概要					
学校と地域の教育に関する博士論文の執筆に向けて、研究史の推敲、国内外で収集した資料の分析・検討などを踏まえ、学位論文の構想を検証する。					
2. 到達目標					
学位論文の草稿の完成を目指して準備を進める。					
3. 授業の計画と内容					
第1週 論文の全体的な構想とその検証 (1)					
第2週 論文の全体的な構想とその検証 (2)					
第3週 論文の全体的な構想とその検証 (3)					
第4週 論文の各論の構想とその検証 (1)					
第5週 論文の各論の構想とその検証 (2)					
第6週 論文の各論の構想とその検証 (3)					
第7週 論文の各論の構想とその検証 (4)					
第8週 論文の各論の構想とその検証 (5)					
第9週 論文の各論の構想とその検証 (6)					
第10週 論文の各論の構想とその検証 (7)					
第11週 論文の各論の構想とその検証 (8)					
第12週 論文の各論の構想とその検証 (9)					
第13週 論文の各論の構想とその検証 (10)					
第14週 論文の各論の構想とその検証 (11)					
第15週 論文の全体的な構想と各論の構想との整合性の検証					
4. テキスト					
【テキスト】 特になし。					
【参考文献】 学生の研究課題やテーマ及び研究の進捗状況に応じて適宜、提示する。					
5. 準備学習					
収集した資料については、内容を把握し、熟考して授業に臨むこと。学校や地域の教育についても積極的にフィールドワークを行って欲しい。					
6. 成績評価の方法					
収集した資料の状況と整理及び資料の読解・分析の進捗状況によって判断する。					
7. 履修の条件					
学校と地域の教育、又は日本・沖縄の教育に興味を抱いている学生を優先的に受講させる。					
8. その他					
講義の進行状況によって授業計画を変更することがある。					

科目番号	科目名	特別演習 IV		担当教員：渡慶次正則	
博国地 022	科目名 (英語)	Special Seminar IV		m.tokeshi@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	2	後期	2	512	講義後 1 時間程度
1. 授業の概要					
収集したデータを先行研究と関連付けながら「調査結果」の章を完成させる。併せて、「文献研究」の章を完成させる。					
2. 到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・収集したデータをリサーチ・クエスションと対照しながら分析する。 ・「調査結果」の章を完成させる。 ・「文献研究」の章を完成させる。 					
3. 授業の計画と内容					
第 1 週	登録、講義のオリエンテーション、進捗状況の確認				
第 2 週	「調査結果」原稿提出と演習内討論				
第 3 週	「調査結果」原稿提出と演習内討論				
第 4 週	「調査結果」原稿提出と演習内討論				
第 5 週	「調査結果」原稿提出と演習内討論				
第 6 週	「調査結果」原稿提出と演習内討論				
第 7 週	「調査結果」完成草稿提出				
第 8 週	「文献研究」原稿提出と演習内討論				
第 9 週	「文献研究」原稿提出と演習内討論				
第 10 週	「文献研究」原稿提出と演習内討論				
第 11 週	「文献研究」原稿提出と演習内討論				
第 12 週	「文献研究」原稿提出と演習内討論				
第 13 週	「文献研究」原稿提出と演習内討論				
第 14 週	「文献研究」完成草稿提出、「学位請求論文執筆計画書」の演習内提出 (指導教員へ)				
第 15 週	演習 IV のまとめ、今後の調査計画の確認				
4. テキスト					
【参考文献】					
Ellis, R. (2004). <i>The study of second language acquisition (2nd)</i> . Hong Kong: Oxford University Press.					
Bachman, L.F. (1990). <i>Fundamental considerations in language testing</i> . Oxford: Oxford University Press.					
Richards, J., & Rogers, T.S. (2014). <i>Approaches and methods in language teaching (3rd ed.)</i> . Cambridge: Cambridge University Press.					
5. 準備学習					
演習の 2 日前までに関連文献のレジユメを提出する。					
6. 成績評価の方法					
	「調査結果」章の草稿提出	50 点			
	「文献研究」章の草稿提出	50 点			
	合計	100 点			
7. 履修の条件					
特になし					
8. その他:					
研究成果の一部を査読付きの学会誌に学術論文として投稿する。					

科目番号	科目名	特別演習V		担当教員：波照間 永吉	
博国地 023	科目名 (英語)	Special Seminar V		E-mail:e.hateruma@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	3	前期	2	227	講義後の1時間程度
1. 授業の概要					
琉球・沖縄文学に関する博士論文の完成を目指して、論文指導を中心に授業を進める。特に、論拠となる資料の的確性、論文の実証性、論理構成などに注意して論文執筆がなされるよう指導を行う。					
2. 到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> 論文各章・節の資料が的確なものであること。 実証的な論述で、論理の構成に矛盾がなく、妥当な結論となっている論文の制作。 博士論文全体の草稿が出来上がっているようにする。 					
3. 授業の計画と内容					
第1週 前学期の成果の確認と論文の全体構想および今学期の目標について確認する。					
第2週 博士論文の執筆と検討。提出資料の妥当性、論文の実証性、論理構成と結論の妥当性の検討①					
第3週 博士論文の執筆と検討。提出資料の妥当性、論文の実証性、論理構成と結論の妥当性の検討②					
第4週 博士論文の執筆と検討。提出資料の妥当性、論文の実証性、論理構成と結論の妥当性の検討③					
第5週 博士論文の執筆と検討。提出資料の妥当性、論文の実証性、論理構成と結論の妥当性の検討④					
第6週 博士論文の執筆と検討。提出資料の妥当性、論文の実証性、論理構成と結論の妥当性の検討⑤					
第7週 博士論文の執筆と検討。提出資料の妥当性、論文の実証性、論理構成と結論の妥当性の検討⑥					
第8週 博士論文の執筆と検討。提出資料の妥当性、論文の実証性、論理構成と結論の妥当性の検討⑦					
第9週 博士論文の執筆と検討。提出資料の妥当性、論文の実証性、論理構成と結論の妥当性の検討⑧					
第10週 博士論文の執筆と検討。提出資料の妥当性、論文の実証性、論理構成と結論の妥当性の検討⑨					
第11週 博士論文の執筆と検討。提出資料の妥当性、論文の実証性、論理構成と結論の妥当性の検討⑩					
第12週 博士論文の執筆と検討。提出資料の妥当性、論文の実証性、論理構成と結論の妥当性の検討⑪					
第13週 博士論文の執筆と検討。提出資料の妥当性、論文の実証性、論理構成と結論の妥当性の検討⑫					
第14週 博士論文全体の構成の検討。資料編の整理①					
第15週 博士論文全体の構成の検討。資料編の整理②					
4. テキスト					
【テキスト】					
外間守善『校注おもろさうし』(2000年・岩波書店)、外間守善・波照間永吉『定本おもろさうし』(2002年・角川書店)、外間守善・波照間永吉『定本琉球国由来記』(1997年・角川書店)、外間守善他『南島歌謡大成 I～V』(1980年・角川書店)					
【参考文献】					
沖縄古語辞典編集委員会編『沖縄古語大辞典』(1995年・角川書店)、玉城政美『南島歌謡論』(1991年・砂子屋書房)、外間守善『南島文学論』(1994年・角川書店)、波照間永吉『南島祭祀歌謡の研究』(1999年・砂子屋書房) 玉城政美『琉球歌謡論』(2010年・砂子屋書房)					
波照間永吉編『鎌倉芳太郎資料集 ノート篇Ⅱ 民俗・宗教』(2006年)					
※その他、必要に応じて適宜参考文献の提示を行う。					
5. 準備学習					
毎回の報告に向けて原稿の執筆を精力的に行うこと。原稿の検討に向けて、作品の分析と先行研究の検討については十分な準備を行うこと。					
6. 成績評価の方法					
授業への取り組み(発表・意見交換)と博士論文各章・節の原稿の完成度によって評価する。					
授業への取り組み：20% (リサーチ課題に関するディスカッションや論文執筆に関するディスカッションなど)					
論文：80%					
7. 履修の条件					
特になし。但し、指導を受けるべき論文の準備が十分に行われていること。					
8. その他					
講義の進行状況によって授業計画を変更することがある。					

科目番号	科目名	特別演習V		担当教員：山里 純一	
博国地 023	科目名 (英語)	Special Seminar V		E-mail:j.yamazato@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	3	前期	2	225	講義後の1時間程度
1. 授業の概要					
南島地域の民俗文化に関する学位論文の執筆と指導					
2. 到達目標					
目次案に基づいて学位論文の骨格を完成させる。					
3. 授業の計画と内容					
第1週 各章の執筆と指導 (1)					
第2週 同章の補訂 (1)					
第3週 各章の執筆と指導 (2)					
第4週 同章の補訂 (2)					
第5週 各章の執筆と指導 (3)					
第6週 同章の補訂 (3)					
第7週 各章の執筆と指導 (4)					
第8週 同章の補訂 (4)					
第9週 各章の執筆と指導 (5)					
第10週 同章の補訂 (5)					
第11週 各章の執筆と指導 (6)					
第12週 同章の補訂 (6)					
第13週 各章の執筆と指導 (7)					
第14週 同章の補訂 (7)					
第15週 授業の総括					
4. テキスト					
参考文献：授業を進める中で、課題に関連する参考文献を適宜紹介する。					
5. 準備学習					
目次案にもとづき各章を執筆したものや補訂したものを必ず用意して授業に臨むこと。					
6. 成績評価の方法					
進捗状況 (50%)					
執筆・補訂内容 (50%)					
7. 履修の条件					
特になし。					
8. その他					
授業への取り組み：リサーチ課題に関するディスカッションや論文執筆に関するディスカッションなど講義の進行状況によって授業計画を変更することがある。					

科目番号	科目名	特別演習V		担当教員：赤嶺 守	
博国地 023	科目名 (英語)	Special Seminar V		E-mail:m.akamine@meior-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	3	前期	2	226	講義後の1時間程度
1. 授業の概要					
中国・琉球関係史に関する博士論文の執筆に取りかかる。各章における表・グラフの作成を行ない、それと論理の展開における整合性を検討する。					
2. 到達目標					
実証性の高い表・グラフの作成を行ない、内容の充足を図る。					
3. 授業の計画と内容					
第1週	各章における表・グラフの作成及び論理の展開における整合性の確認				
第2週	各章における表・グラフの作成及び論理の展開における整合性の確認				
第3週	各章における表・グラフの作成及び論理の展開における整合性の確認				
第4週	各章における表・グラフの作成及び論理の展開における整合性の確認				
第5週	各章における表・グラフの作成及び論理の展開における整合性の確認				
第6週	各章における表・グラフの作成及び論理の展開における整合性の確認				
第7週	各章における表・グラフの作成及び論理の展開における整合性の確認				
第8週	各章における表・グラフの作成及び論理の展開における整合性の確認				
第9週	各章における表・グラフの作成及び論理の展開における整合性の確認				
第10週	各章における表・グラフの作成及び論理の展開における整合性の確認				
第11週	各章における表・グラフの作成及び論理の展開における整合性の確認				
第12週	各章における表・グラフの作成及び論理の展開における整合性の確認				
第13週	研究課題全体の最終検討、指導				
第14週	研究課題全体の最終検討、指導				
第15週	研究課題全体の最終検討、指導				
4. テキスト					
参考文献：授業を進める中で、課題に関連する参考資料を適宜提示する。					
5. 準備学習					
事前に、受講者は各章における表・グラフの作成を行い論理の展開における整合性について整理しておくこと。					
6. 成績評価の方法					
研究課題に対する取り組みの深化の程度をみて総合的に評価する。					
7. 履修の条件					
特になし。					
8. その他					
表やグラフの作成については、入力情報にミスがないか入念なチェックを試みること。 講義の進行状況によって授業計画を変更することがある。					

科目番号	科目名	特別演習 V		担当教員：住江 淳司	
博国地 023	科目名 (英語)	Special Seminar V		E-mail:j.sumie@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	3	前期	2	224	火：10:30-12:00、 金：13:00-14:30
1. 授業の概要					
中南米地域文化に関する学位論文の各論の執筆を検討し、推敲を繰り返しながら完成を目指す。					
2. 到達目標					
学位論文の各論の執筆をつづけ、完成を目指す。					
3. 授業の計画と内容					
第1週 各論の執筆指導 (1)					
第2週 各論の執筆指導 (2)					
第3週 各論の執筆指導 (3)					
第4週 各論の執筆指導 (4)					
第5週 各論の執筆指導 (5)					
第6週 各論の執筆指導 (6)					
第7週 各論の執筆指導 (7)					
第8週 執筆部分の検討と修正 (1)					
第9週 執筆部分の検討と修正 (2)					
第10週 執筆部分の検討と修正 (3)					
第11週 執筆部分の検討と修正 (4)					
第12週 執筆部分の検討と修正 (5)					
第13週 執筆部分の検討と修正 (6)					
第14週 執筆部分の検討と修正 (7)					
第15週 執筆部分の検討と修正 (8)					
4. テキスト					
参考文献 学生の研究課題やテーマ及び研究の進捗状況に応じて適宜、提示する。					
5. 準備学習					
毎回、新たに執筆したものや修正したものを用意して授業に臨むこと。					
6. 成績評価の方法					
学位論文の構想と執筆計画に照らし合わせて、執筆の進捗状況及びその内容の整合性を評価する。					
7. 履修の条件					
中南米地域の文化触変に興味のある学生を優先する。					
8. その他					
講義の進行状況によって授業計画を変更することがある。					

科目番号	科目名	特別演習 V		担当教員：高嶺 司	
博国地 023	科目名 (英語)	Special Seminar V		E-mail: t.takamine@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	3	前期	2	503	演習終了後または予約による
1. 授業の概要					
アジア太平洋地域の国際関係や政治外交に関する博士論文の第2草稿の執筆を行い、執筆内容のレビューをもとに論文全体の理論的アプローチ、論旨の展開、証拠・引用文献の提示に関する妥当性の確認と修正を行う。					
2. 到達目標					
各章の第2草稿の執筆を進めつつ、執筆内容のレビューをもとに論文全体の理論的アプローチ、論旨の展開、証拠・引用文献の提示の質的向上をはかり完成に近づける。					
3. 授業の計画と内容					
第1週	各章の第2草稿の執筆と指導				
第2週	各章の第2草稿の執筆と指導				
第3週	各章の第2草稿の執筆と指導				
第4週	各章の第2草稿の執筆と指導				
第5週	各章の第2草稿の執筆と指導				
第6週	各章の第2草稿の執筆と指導				
第7週	各章の第2草稿の執筆と指導				
第8週	各章の第2草稿の執筆と指導				
第9週	理論的アプローチ、論旨の展開、証拠・引用文献の提示に関する妥当性の確認				
第10週	理論的アプローチ、論旨の展開、証拠・引用文献の提示に関する妥当性の確認				
第11週	理論的アプローチ、論旨の展開、証拠・引用文献の提示に関する妥当性の確認と（必要に応じて）修正				
第12週	各章の最終稿の執筆と指導				
第13週	各章の最終稿の執筆と指導				
第14週	各章の最終稿の執筆と指導				
第15週	各章の最終稿の執筆と指導				
4. テキスト					
参考文献：授業の進捗状況に応じて、関連する参考文献や資料を適宜紹介する。					
5. 準備学習					
各章の執筆を進捗させつつ、内容についての批判的な検討と修正を試みながら授業に臨むこと。					
6. 成績評価の方法					
各章執筆の進捗状況と理論的アプローチ、論旨の展開、証拠・引用文献の提示に関する妥当性の確認と修正に関する完成度によって総合的に評価する。					
7. 履修の条件					
前提科目の「特別演 I, II, III, IV」を履修していること。 国際政治学や国際関係学関連分野についての興味と知識を有すること。					
8. その他					
授業の進行状況によって授業計画を変更することがある。授業は学生の希望によって、対面またはオンラインで実施する。					

科目番号	科目名	特別演習V		担当教員：嘉納英明	
博国地 023	科目名 (英語)	Special SeminarV		Email: kano@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	3	前期	2	510	講義後の1時間程度
1. 授業の概要					
学校と地域の教育に関する学位論文の各論の執筆を検討し、推敲を繰り返しながら完成を目指す。					
2. 到達目標					
学位論文の各論の執筆を継続し、完成を目指す。					
3. 授業の計画と内容					
第1週	各論の執筆指導 (1)				
第2週	各論の執筆指導 (2)				
第3週	各論の執筆指導 (3)				
第4週	各論の執筆指導 (4)				
第5週	各論の執筆指導 (5)				
第6週	各論の執筆指導 (6)				
第7週	各論の執筆指導 (7)				
第8週	各論の検討と修正 (1)				
第9週	各論の検討と修正 (2)				
第10週	各論の検討と修正 (3)				
第11週	各論の検討と修正 (4)				
第12週	各論の検討と修正 (5)				
第13週	各論の検討と修正 (6)				
第14週	各論の検討と修正 (7)				
第15週	各論の検討と修正 (8)				
4. テキスト					
【テキスト】 特になし。					
【参考文献】 学生の研究課題やテーマ及び研究の進捗状況に応じて適宜、提示する。					
5. 準備学習					
毎回、執筆した原稿、又は修正原稿を準備して授業に臨むこと。					
6. 成績評価の方法					
学位論文の構想と執筆計画に照らし合わせて、執筆の進捗状況及びその整合性を評価する。					
7. 履修の条件					
学校と地域の教育、又は日本・沖縄の教育に興味を抱いている学生を優先的に受講させる。					
8. その他					
講義の進行状況によって授業計画を変更することがある。					

科目番号	科目名	特別演習 V		担当教員：渡慶次正則	
博国地 023	科目名 (英語)	Special Seminar V		m.tokeshi@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	3	前期	2	512	講義後 1 時間程度
1. 授業の概要					
「結論」の章を執筆し、最終的に「博士論文」提出原稿を完成させる。併せて「学位請求論文概要」の提出と「学位請求論文」の提出を行う。					
2. 到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・「序章」「文献研究」「調査方法」「調査結果」の章を再読し、「結論」の章を完成させる ・「学位請求論文概要」を提出する ・目次や引用文献、謝辞などを加えて、博士論文の体裁を整え、最終原稿を提出する。 ・「学位請求論文」の提出を行う。 					
3. 授業の計画と内容					
第 1 週	登録、講義のオリエンテーション、「学位請求論文執筆計画書」の最終確認				
第 2 週	「調査方法」章の再読と演習内討論、「学位請求論文執筆計画書」の提出 (担当事務部署へ)				
第 3 週	「文献研究」章の再読と演習内討論				
第 4 週	「調査結果」章の再読と演習内討論				
第 5 週	「結論」章の原稿提出と演習内討論				
第 6 週	「結論」章の原稿提出と演習内討論				
第 7 週	「結論」章の最終原稿の提出				
第 8 週	「博士論文」全体の再読と演習内討論				
第 9 週	「博士論文」全体の再読と演習内討論				
第 10 週	「学位請求論文概要」の原稿提出、「博士論文」全体の再読と演習内討論				
第 11 週	「学位請求論文概要」の原稿提出と「博士論文」全体の再読と演習内討論				
第 12 週	「学位請求論文概要」の提出 (担当事務部署へ)				
第 13 週	「目次」「表紙」「謝辞」「引用 (参考) 文献」Bibliography 原稿の提出				
第 14 週	「学位請求論文」最終原稿の提出 (指導教員へ)、「博士論文本審査」に係る書類提出の確認				
第 15 週	演習 V のまとめ、今後の調査計画の確認				
4. テキスト					
【参考文献】					
Ellis, R. (2004). <i>The study of second language acquisition (2nd)</i> . Hong Kong: Oxford University Press.					
Bachman, L.F. (1990). <i>Fundamental considerations in language testing</i> . Oxford: Oxford University Press.					
Richards, J., & Rogers, T.S. (2014). <i>Approaches and methods in language teaching (3rd ed.)</i> . Cambridge: Cambridge University Press.					
5. 準備学習					
演習の 2 日前までに関連文献のレジユメを提出する。					
6. 成績評価の方法					
「学位請求論文」最終原稿の提出			100 点		
合計			100 点		
7. 履修の条件					
特になし					
8. その他					
基本的に博士課程の研究を最優先にし、博士課程に相応しい研究活動を行い、自立した研究者を志すこと。					

科目番号	科目名	特別演習VI		担当教員：波照間 永吉	
博国地 024	科目名 (英語)	Special Seminar VI		E-mail:e.hateruma@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	3	後期	2	227	講義後の1時間程度
1. 授業の概要					
琉球・沖縄文学に関する博士論文の完成をめざし、その完成度を高めるように取り組む。論文各章が有機的に関連し、緊密な論述関係が構築されているかを点検する。また、微細な誤謬もないよう、精査する。					
2. 到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・博士論文の全体構想に基づいて論文各章を完成する。 ・論文の各章・節間の関係に留意し、緊密な論述関係をチェックし、論文の完成度を高める。 ・参考文献一覧・資料編の作成などを完了する。 					
3. 授業の計画と内容					
第1週	これまでで書き上げてきた原稿を論文の全体構想に従って点検する。				
第2週	論文各章・節の検討。論文各章・各節の関係に着目した叙述の修正①				
第3週	論文各章・節の検討。論文各章・各節の関係に着目した叙述の修正②				
第4週	論文各章・節の検討。論文各章・各節の関係に着目した叙述の修正③				
第5週	論文各章・節の検討。論文各章・各節の関係に着目した叙述の修正④				
第6週	論文各章・節の検討。論文各章・各節の関係に着目した叙述の修正⑤				
第7週	論文各章・節の検討。論文各章・各節の関係に着目した叙述の修正⑥				
第8週	論文各章・節の検討。論文各章・各節の関係に着目した叙述の修正⑦				
第9週	博士論文の修筆指導。微細な修正部分の検討①				
第10週	博士論文の修筆指導。微細な修正部分の検討②				
第11週	博士論文の修筆指導。微細な修正部分の検討③				
第12週	博士論文の修筆指導。微細な修正部分の検討④				
第13週	博士論文の修筆指導。微細な修正部分の検討⑤				
第14週	博士論文の最終的修筆指導①				
第15週	博士論文の最終的修筆指導②				
4. テキスト					
特に指示しない。必要に応じて適宜、参考文献を提示する。					
5. 準備学習					
授業への取り組み（発表・意見交換）と博士論文各章・節の原稿の完成度によって評価する。その比率は前者 20%、後者 80%の割合とする。					
6. 成績評価の方法					
授業への取り組み（発表・意見交換）と博士論文全体の完成度によって評価する。 授業への取り組み：20%（リサーチ課題に関するディスカッションや論文執筆に関するディスカッションなど） 論文：80%					
7. 履修の条件					
特になし。但し、指導を受けるべき論文の準備が十分に行われていること。					
8. その他					
講義の進行状況によって授業計画を変更することがある。					

科目番号	科目名	特別演習VI		担当教員：山里 純一	
博国地 024	科目名 (英語)	Special Seminar VI		E-mail:j.yamazato@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	3	後期	2	225	講義後の1時間程度
1. 授業の概要					
南島地域の民俗文化に関する学位論文の執筆・補訂と指導					
2. 到達目標					
学位論文を完成させる。					
3. 授業の計画と内容					
第1週 各章の再検討と補訂 (1)					
第2週 各章の再検討と補訂 (2)					
第3週 各章の再検討と補訂 (3)					
第4週 各章の再検討と補訂 (4)					
第5週 各章の再検討と補訂 (5)					
第6週 各章の再検討と補訂 (6)					
第7週 各章の再検討と補訂 (7)					
第8週 各章の再検討と補訂 (8)					
第9週 各章の再検討と補訂 (9)					
第10週 各章の再検討と補訂 (10)					
第11週 各章の再検討と補訂 (11)					
第12週 全体の整合性と論証性の総点検 (1)					
第13週 全体の整合性と論証性の総点検 (2)					
第14週 全体の整合性と論証性の総点検 (3)					
第15週 学位論文の完成と総括					
4. テキスト					
参考文献：授業を進める中で、課題に関連する参考文献を適宜紹介する。					
5. 準備学習					
各章を再検討し補訂したものを必ず用意して授業に臨むこと。					
6. 成績評価の方法					
進捗状況 (10%)					
学位論文の完成度 (90%)					
7. 履修の条件					
特になし。					
8. その他					
講義の進行状況によって授業計画を変更することがある。					

科目番号	科目名	特別演習VI		担当教員：赤嶺 守	
博国地 024	科目名 (英語)	Special Seminar VI		E-mail:m.akamine@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	3	後期	2	226	講義後の1時間程度
1. 授業の概要					
中国・琉球関係史に関する博士論文を完成させる。論文の構成、体系的実証性、独創性および学術的意義、研究付録の整理等について、最終的な調整・確認をおこなう。					
2. 到達目標					
独創的な実証性の高い学術的意義を有する論文に仕上げる。					
3. 授業の計画と内容					
第1週	論文各章における体系的実証性の最終確認				
第2週	論文各章における体系的実証性の最終確認				
第3週	論文各章における体系的実証性の最終確認				
第4週	論文各章における体系的実証性の最終確認				
第5週	論文各章における体系的実証性の最終確認				
第6週	論文全体の構成及び独創性・学術的意義の最終確認				
第7週	論文全体の構成及び独創性・学術的意義の最終確認				
第8週	論文全体の構成及び独創性・学術的意義の最終確認				
第9週	結論の最終検討・確認				
第10週	研究付録の整理・確認				
第11週	研究付録の整理・確認				
第12週	参考文献の確認及び注釈の最終確認				
第13週	参考文献の確認及び注釈の最終確認				
第14週	博士論文全体の最終調整・校正				
第15週	博士論文全体の最終調整・校正				
4. テキスト					
参考文献：授業を進める中で、課題に関連する参考資料を適宜提示する。					
5. 準備学習					
各章における論文構成、体系的実証性、独創性および学術的意義の確認を事前に済ましておくこと。					
6. 成績評価の方法					
研究課題に対する取り組みの深化の程度をみて総合的に評価する。					
7. 履修の条件					
特になし。					
8. その他					
博士論文執筆の最終段階であることから、慎重且つ綿密なチェックにより論文の完成度を高めること。 講義の進行状況によって授業計画を変更することがある。					

科目番号	科目名	特別演習VI		担当教員：住江 淳司	
博国地 024	科目名 (英語)	Special Seminar VI		E-mail:j.sumie@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	3	後期	2	224	火：10:30-12:00、 金：13:00-14:30
1. 授業の概要					
中南米地域文化に関する学位論文を検討と修正を繰り返しながらまとめていく。					
2. 到達目標					
学位論文の完成を目指す。最終的な口頭発表の準備に向けて指導する。					
3. 授業の計画と内容					
第1週 執筆部分の再検討と修正 (1)					
第2週 執筆部分の再検討と修正 (2)					
第3週 執筆部分の再検討と修正 (3)					
第4週 執筆部分の再検討と修正 (4)					
第5週 執筆部分の再検討と修正 (5)					
第6週 執筆部分の再検討と修正 (6)					
第7週 執筆部分の再検討と修正 (7)					
第8週 執筆部分の再検討と修正 (8)					
第9週 執筆部分の再検討と修正 (9)					
第10週 執筆部分の再検討と修正 (10)					
第11週 全体の整合性・論証性の検討 (1)					
第12週 全体の整合性・論証性の検討 (2)					
第13週 全体の整合性・論証性の検討 (3)					
第14週 全体の整合性・論証性の検討 (4)					
第15週 全体の整合性・論証性の検討 (5)					
4. テキスト					
参考文献： 学生の研究課題やテーマ及び研究の進捗状況に応じて適宜、提示する。					
5. 準備学習					
毎回、新たに執筆したものと、修正補訂を加えたものを用意して授業に臨むこと。					
6. 成績評価の方法					
学位論文の構想と執筆計画に照らし合わせて、執筆の進捗状況及びその完成度を評価する。					
7. 履修の条件					
中南米地域の文化触変に興味のある学生を優先する。					
8. その他					
講義の進行状況によって授業計画を変更することがある。					

科目番号	科目名	特別演習 VI		担当教員：高嶺 司	
博国地 024	科目名 (英語)	Special Seminar VI		E-mail: t.takamine@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	3	後期	2	503	演習終了後または予約による
1. 授業の概要					
博士論文の最終稿を継続して執筆するとともに、論文全体のロジック（構成）、独創性、学術的意義についての最終確認や序論、結論、脚注、参考文献のチェックを行い、書式統一や文章の細部点検と修正を経て博士論文を完成させ提出する。					
2. 到達目標					
博士論文を完成させる。					
3. 授業の計画と内容					
第1週 各章の最終稿の執筆と指導					
第2週 各章の最終稿の執筆と指導					
第3週 各章の最終稿の執筆と指導					
第4週 各章の最終稿の執筆と指導					
第5週 論文全体のロジック（構成）、独創性、学術的意義についての最終確認					
第6週 論文全体のロジック（構成）、独創性、学術的意義についての最終確認					
第7週 序論の最終確認と修正					
第8週 結論の最終確認と修正					
第9週 図表、グラフ、付録、ページ番号等の最終確認と修正					
第10週 脚注又は文末脚注の最終確認と修正					
第11週 参考文献リストの最終確認と完成					
第12週 論文全体の書式統一					
第13週 論文全体の書式統一と文章の細部点検と修正					
第14週 論文全体の書式統一と文章の細部点検と修正					
第15週 博士論文の完成そして提出					
4. テキスト					
参考文献：授業の進捗状況に応じて、関連する参考文献や資料を適宜紹介する。					
5. 準備学習					
博士論文最終稿の執筆を進捗させつつ、文章、脚注、参考文献、図表、グラフ等の書式統一と修正に留意しながら授業に臨むこと。					
6. 成績評価の方法					
課題に対する取り組みと博士論文の完成度によって総合的に評価する。					
7. 履修の条件					
前提科目の「特別演 I, II, III, IV, V」を履修していること。 国際政治学や国際関係学関連分野についての興味と知識を有すること。					
8. その他					
授業の進行状況によって授業計画を変更することがある。授業は学生の希望によって、対面またはオンラインで実施する。					

科目番号	科目名	特別演習VI		担当教員：嘉納英明	
博国地 024	科目名 (英語)	Special SeminarVI		Email: kano@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	3	後期	2	5 1 0	講義後の1時間程度
1. 授業の概要					
学校と地域の教育に関する学位論文を検討と修正を繰り返しながらまとめていく。					
2. 到達目標					
学位論文の完成を目指す。口頭発表の準備に向けて指導する。					
3. 授業の計画と内容					
第1週	各論の再検討と修正 (1)				
第2週	各論の再検討と修正 (2)				
第3週	各論の再検討と修正 (3)				
第4週	各論の再検討と修正 (4)				
第5週	各論の再検討と修正 (5)				
第6週	各論の再検討と修正 (6)				
第7週	各論の再検討と修正 (7)				
第8週	各論の再検討と修正 (8)				
第9週	各論の再検討と修正 (9)				
第10週	各論の再検討と修正 (10)				
第11週	全体の整合性・論証性の検討 (1)				
第12週	全体の整合性・論証性の検討 (2)				
第13週	全体の整合性・論証性の検討 (3)				
第14週	全体の整合性・論証性の検討 (4)				
第15週	全体の整合性・論証性の検討 (5)				
4. テキスト					
【テキスト】 特になし。					
【参考文献】 学生の研究課題やテーマ及び研究の進捗状況に応じて適宜、提示する。					
5. 準備学習					
毎回、執筆した原稿、又は修正原稿を準備して授業に臨むこと。					
6. 成績評価の方法					
学位論文の構想と執筆計画に照らし合わせて、執筆の進捗状況及びその完成度を評価する。					
7. 履修の条件					
学校と地域の教育、又は日本・沖縄の教育に興味を抱いている学生を優先的に受講させる。					
8. その他					
講義の進行状況によって授業計画を変更することがある。					

科目番号	科目名	特別演習 VI		担当教員：渡慶次正則	
博国地 024	科目名 (英語)	Special Seminar VI		m.tokeshi@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	3	後期	2	512	講義後 1 時間程度
1. 授業の概要					
博士論文審査と最終試験の準備を行う。併せて、博士論文原稿全体を再読し、リサーチ・クエスチョンとの整合性、論文の細部や一貫性、結束、体裁などを確認する。					
2. 到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> 博士論文審査と最終試験の準備を行う。 博士論文審査委員の査読や最終試験の結果を再検討し、博士論文の最終的な修正を行う。 博士論文の出版等や卒業要件等を最終確認する。 					
3. 授業の計画と内容					
第 1 週	登録、講義のオリエンテーション				
第 2 週	論文全体の論理的整合性、結束、体裁、細部の確認、博士論文審査と最終試験の準備				
第 3 週	論文全体の論理的整合性、結束、体裁、細部の確認、博士論文審査と最終試験の準備				
第 4 週	論文全体の論理的整合性、結束、体裁、細部の確認、博士論文審査と最終試験の準備				
第 5 週	論文全体の論理的整合性、結束、体裁、細部の確認、博士論文審査と最終試験の準備				
第 6 週	論文全体の論理的整合性、結束、体裁、細部の確認、博士論文審査と最終試験の準備				
第 7 週	論文全体の論理的整合性、結束、体裁、細部の確認、博士論文審査と最終試験の準備				
第 8 週	論文全体の論理的整合性、結束、体裁、細部の確認、博士論文審査と最終試験の準備				
第 9 週	論文全体の論理的整合性、結束、体裁、細部の確認、博士論文審査と最終試験の準備				
第 10 週	論文全体の論理的整合性、結束、体裁、細部の確認、博士論文審査と最終試験の準備				
第 11 週	論文全体の論理的整合性、結束、体裁、細部の確認、博士論文審査と最終試験の準備				
第 12 週	論文全体の論理的整合性、結束、体裁、細部の確認、博士論文審査と最終試験の準備				
第 13 週	論文全体の論理的整合性、結束、体裁、細部の確認、博士論文審査と最終試験の準備				
第 14 週	最終試験を受ける。博士論文審査。				
第 15 週	博士論文出版の準備確認と卒業要件の確認				
4. テキスト					
【参考文献】					
Ellis, R. (2004). <i>The study of second language acquisition (2nd)</i> . Hong Kong: Oxford University Press.					
Bachman, L.F. (1990). <i>Fundamental considerations in language testing</i> . Oxford: Oxford University Press.					
Richards, J., & Rogers, T.S. (2014). <i>Approaches and methods in language teaching (3rd ed.)</i> . Cambridge: Cambridge University Press.					
5. 準備学習					
演習の 2 日前までに関連文献のレジюмеを提出する。					
6. 成績評価の方法					
論文全体の論理的整合性、一貫性、体裁、細部の確認、博士論文審査と最終試験の準備				100 点	
合計				100 点	
7. 履修の条件					
特になし					
8. その他					
基本的に博士課程の研究を最優先にし、博士課程に相応しい研究活動を行い、自立した研究者を志すこと。					